

閉会あいさつ

田巻松雄（宇都宮大学教授、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長）

半日お疲れ様でした。今回の事業の準備は多分夏前から始まっていて、それも含めると数ヶ月の時間を使ったプロジェクトで、その最終的な締めというのが今日だったわけですが、すごく盛況でいい形で終わったことを喜んでおります。じつは、フル参加したかったんですが、学生の保護者が、相談があるということで静岡から来まして、ちょっと相談していたものですから、学生さんの後半のプレゼンは聞けませんでした。報告書にまとめていただけだと思いますので、その時に見たいと思います。前半のお話もそうですし、非常に楽しく聞かせてもらったところが多かったと正直思います。個人的には、植樹の話が一番自分にとっては印象的で、ハートランドでしたっけ、アイデアがすばらしいと思います。ぼくもやってみようかなと、相手をこれから探していきたいと思います。それで足尾は僕にとっても特別な、といいますか、実は故郷が夕張なんですけど、あそこは北炭という大企業が一時期夕張の石炭産業を支えていて、文字通りエネルギーを支えていました。ところが不運な事故があったこともありまして、北炭が撤退し、一時期は12万人の人口がいた場所が今1万人を切っております。そういう意味では足尾とすごく似ているんですね。なので足尾にいくと、夕張を思わず思い出してしまうような感覚があるもんですから、足尾のことはすごく好きだし、いろいろな思いがある地域でした。でそういう地域を今回取り上げて、いろいろな角度から今後のまちづくりみたいなことを考える。特に留学生の人たちは本当に斬新な発想をフルに生かして、本当に面白い提案をしていただきましたから、今回のシンポジウムを締めとする一連の事業は本当に成功に終わったのではないかなと感じております。そのような意味ではセンターとしてこの数年続けてきた日光プロジェクトが一番重要視していた事業の一つなので、どういった形で展開するかということを考えていきたいと思いますが、ぜひこれからもみなさんセンターの事業にご理解とご協力をお願いしたいと思います。どうも今日はありがとうございました。